

平成 20 年度第 1 回中原区区民会議運営部会 摘録

日 時 平成 20 年 8 月 5 日 (火) 午後 4 時 00 分 ~ 午後 5 時 34 分

場 所 中原区役所 5 階 505 会議室

出席者 鈴木委員、竹井委員、芳賀委員、藤枝委員、藤嶋委員、吉房委員

(事務局) 御前副区長、齋藤企画課長、日笠主査、小木曾職員、石渡職員

会議概要

1 正副部会長の互選

藤枝委員を部会長、鈴木委員を副部会長に選任

2 議題

(1) 第 2 期中原区区民会議の運営について

事務局から資料 1 - 1 及び 1 - 2 に基づき、「第 2 期中原区区民会議のスケジュール(案)」及び「審議の流れ(案)」について説明を行い、(案)のとおり了承されました。

(運営部会における主な意見)

- ・ 第 1 期の区民会議で継続してすることになった環境への取組みについては、今後も体系的に施策を考えて取り組むようにするべきである。
- ・ 区民会議が「区民に知られていない」ことが課題である。区民会議のことを周知させるよう努めることが必要である。
- ・ 区民会議の周知において会議の傍聴人が増えることもひとつの方法ではあるが、色々な場(会合)で委員が働きかけて知らせることも必要である。
- ・ 区民会議で取り上げるテーマによっても、区民の関心が違う。身近な、切実な課題などを取り上げることによって興味を引くこともあるので、テーマ選びも重要ではないかと思う。

(2) 第 2 回中原区区民会議の検討テーマ及び今後の検討テーマについて

事務局から資料 2 (第 1 回区民会議で各委員から提案された検討テーマを課題別に整理したもの) について説明を行い、第 2 回区民会議の検討テーマについて審議を行いました。

(運営部会における主な意見)

- ・ 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」の問題は、「安全安心のまちづくり」という課題に含まれてくるのではないか。それらも含めると、「安全安心のまちづくり」という課題への提案の数は多く、重い課題とも言える。
- ・ 提案の数の多さだけで課題の重さを量ることはできないと思う。ひとつひとつの課題がそれぞれに重要性がある。自転車問題も提案数が多いが、これはやはり中原区の地域の特色を現しているとも言える。
- ・ 自転車の問題にこれだけの委員から提案があるということは、やはり、この問題への関心が高いとも言えるのでは。
- ・ 放置自転車問題でも、自転車を使わないで公共交通機関を利用すること、歩くことは健康のためにいい、といった少し視点を変えた投げかけ方が必要である。

- ・ 今、町内会で自転車のマナーアップの取り組みを行っている。こうした取り組みを他の町内会でも行えないか、とも考えている。
- ・ マナーということであれば、教育問題も大事である。
- ・ 自転車の問題を取り上げるとすると、マナーというソフトの問題もあれば、駐輪場が足りないというハード面の課題もあるのでは。
- ・ 駐輪場については、小杉駅周辺は130%以上の利用率、中原駅などでは、60～70%の利用しかない。利用者の自転車の置き方(マナー)なども問題である。
- ・ 自転車のマナーを取り上げると、その他のマナーにもつながるのでは。
- ・ 放置自転車問題をやるのなら、駐輪場の状況や放置自転車の台数などのデータの提供も必要である。
- ・ マナーというと自転車だけではなく、公共のマナーという視点も必要では。
- ・ 「公共のマナー」ということになると、幅が広くなりすぎるのでは。テーマはひとつに絞って、自転車のマナーを取り上げれば、多くのマナーにもつながっていくのではないか。

以上のような議論の結果、第2回区民会議の検討テーマを「放置自転車問題」とすることを決定しました。

(3) 区民会議の広報について

事務局から区民会議の広報のため広報紙『区民会議だより』の発行について提案を行いました。

(広報に関する主な意見)

- ・ 区民会議の開催のお知らせであるとか、会議のテーマなどをしっかりお知らせしたほうがよい。
- ・ 広報紙の色を統一して、この色のチラシがきたら、区民会議だからだと分かるようなものにしたほうがよい。色は(うすい)緑でいいのでは。(意見多数により決定)
- ・ タイトルを親しみが持てるものにしたほうがよい。
- ・ 広報をすることも大切であるが、区民会議の傍聴者に意見を聞く機会を設けるなど、区民が参加している意識を持たせる工夫をしたほうがよい。市民報告会を2年間に1回ということではなく、課題テーマごとに意見を交わす場を作っていければよいのでは。

広報紙について、委員の意見を参考に事務局で編集して作成・配布することに決定しました。

以上